

展示している主な資料と紹介する遺跡

1. 水辺の弥生ムラ

弥生土器壺・鉢・甕	北区 同心町遺跡	弥生時代
直柄平鉢	中央区 大坂城跡	弥生時代
サヌカイ製大型尖頭器	中央区 大坂城跡	弥生時代

2. 古代から中世の暮らし・流通・信仰

須恵器杯	北区 豊崎遺跡	奈良時代
黒色土器椀	北区 豊崎遺跡	平安時代
瓦質羽釜	北区 豊崎遺跡	室町時代
滑石製石鍋	中央区 大坂城跡	鎌倉～室町時代
古瀬戸袴腰形香炉	中央区 大坂城跡	鎌倉～室町時代
中国産青磁碗	中央区 大坂城跡	鎌倉～室町時代
連珠文軒平瓦	中央区 大坂城跡	鎌倉～室町時代

3. 梅田墓に葬られた人々

石製墓誌	北区 大深町遺跡	江戸時代
蔵骨器	北区 大深町遺跡	江戸時代
甕棺	北区 大深町遺跡	江戸～明治時代
位牌	北区 大深町遺跡	江戸時代
舍利容器	北区 大深町遺跡	江戸～明治時代
水晶製・土製数珠玉	北区 大深町遺跡	江戸時代
土人形	北区 大深町遺跡	江戸～明治時代

4. 城下町の生業と蔵屋敷

鑄造用甕炉	中央区 大坂城跡	豊臣期
鍋の鑄型	中央区 大坂城跡	豊臣期
中国産施釉陶器騎馬人形	中央区 大坂城跡	豊臣期
尾戸焼「寿」字文皿	北区中之島蔵屋敷跡(久留米藩)	江戸時代
九州産陶器(薩摩焼)土瓶	北区中之島蔵屋敷跡(久留米藩)	江戸時代
吉向焼碗	北区中之島蔵屋敷跡	江戸時代

※出品資料はすべて大阪市教育委員会蔵

特設コーナー

発掘調査成果からみた鎌倉時代の大阪

港町・渡辺津と四天王寺を中心に、発掘調査成果から鎌倉時代の大阪の様子を紹介します。



高麗青磁梅瓶 13世紀 北区 天満本願寺跡



「東大寺大仏殿」銘軒丸瓦 13世紀 中央区 大坂城下町跡

大阪歴史博物館 Osaka Museum of History

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
電話 06-6946-5728 FAX 06-6946-2662
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

特集展示「新発見!なにわの考古学2022」

会 期：令和4年9月7日(水)～11月14日(月)
会 場：大阪歴史博物館 8階 特集展示室
展示担当：岡本 健

開館時間：午前9時30分～午後5時
※ただし入館は閉館30分前まで

休 館 日：火曜日

観 覧 料：常設展観覧料でご覧になれます。
大 人 600円(540円)
高校生・大学生 400円(360円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料



電車・バスでお越しの方
Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②・③号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前

講演会「大阪の歴史を掘る2022」

展示で取り上げた大阪市内の発掘調査の成果を紹介し、新たな知見やさまざまな発見についてお話しします。また、奈良大学教授 木下光生氏をお招きし、江戸時代の大阪の墓制の実態をふまえ、梅田墓の発掘調査の意義をお話しいただきます。

1) 大庭 重信 (一般財団法人 大阪市文化財協会 学芸員)
「大阪市内の発掘調査成果—令和3年度を中心に—」

2) 木下 光生 氏 (奈良大学 教授)
「近世大阪における火葬と土葬—梅田墓発掘の意義—」

【日 時】 令和4年9月11日(日)
午後1時30分～午後4時30分(受付：午後1時～)

【会 場】 大阪歴史博物館 4階 講堂

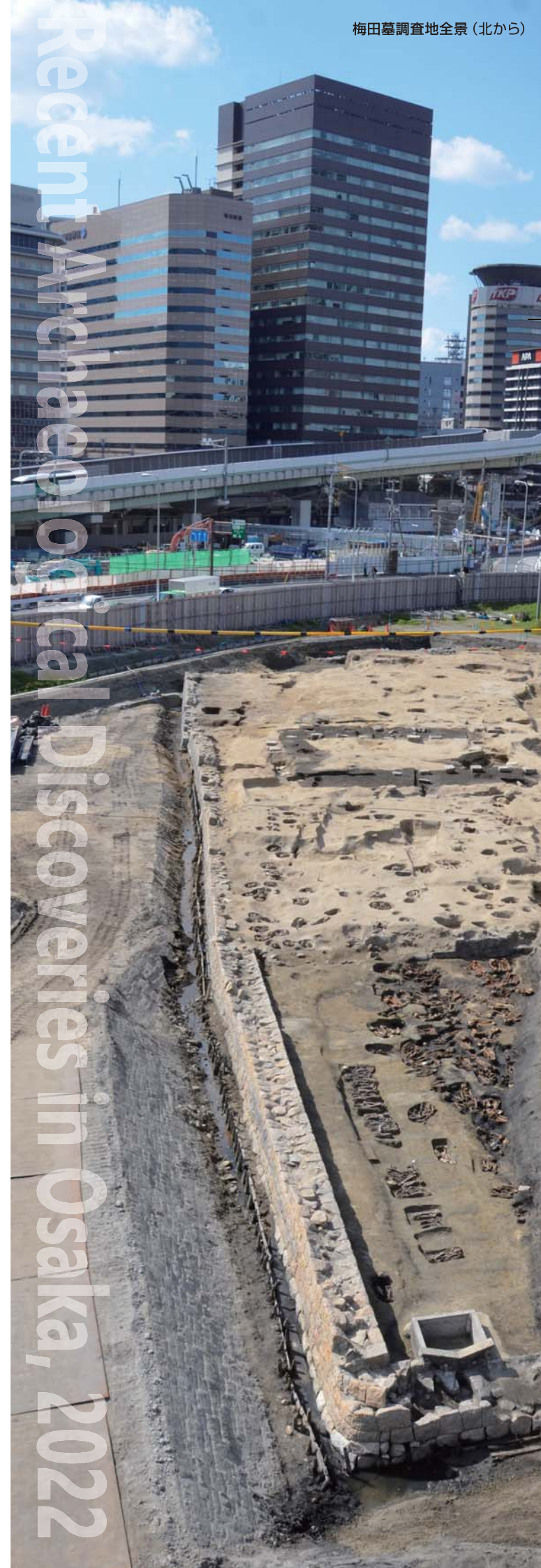
【定 員】 180名(事前申込) ※申込方法の詳細はホームページなどでお知らせします

【参加費】 500円

【主 催】 大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更または中止する場合があります。

梅田墓調査地全景(北から)



特集展示

新発見!



梅田墓の石製墓誌

なにわの考古学

2022

令和4年

9.7水▶11.14月



梅田墓で副葬された土人形

主催：大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会

1. 水辺の弥生ムラ

旧石器 縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌・薊 豊臣 江戸 近代
B.C.4C B.C.3C

弥生時代に関わる発掘調査成果を 2 例紹介します。いずれも水辺の微高地上にある、弥生時代中期（紀元前 3～4 世紀）に営まれたムラにかかわる成果です。中央区大坂城跡の下層には縄文～弥生時代の貝塚で有名な森の宮遺跡と一連の遺跡があります。弥生時代の鍬の未完成品は、溝のなかで水漬けで保管されていたもので、ムラのなかで木器の製作・加工が行われていたことがわかります。北区同心町遺跡では井戸や石器・土器が出土し、ムラが分布していたことがわかりました。



JR 森ノ宮駅近くで見つかった鍬の未完成品
紀元前 3～4 世紀 中央区 大坂城跡

3. 梅田墓に葬られた人々

旧石器 縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌・薊 豊臣 江戸 近代
19C

「大坂七墓」の一つ「梅田墓」は、貞享年間（1684～1688）に現在の大阪駅南側にあった曾根崎村から「うめきた」周辺に移転されました。発掘調査では墓地の東部が見つかり、年代測定や文献資料から、1845 年ごろに拡幅・増設した部分だとわかりました。この場所では明治時代前半まで約 50 年間にわたり埋葬が行われ、土葬は約 1,700 体、火葬はその 10 倍ほどもあったと考えられています。出土した蔵骨器や石製の墓誌からは、梅田墓に葬られた人々の居住地などを知ることができました。



梅田墓の墓域とその周囲を区画する石垣
19 世紀中頃～後半 北区 大深町遺跡

2. 古代から中世の暮らし・流通・信仰

旧石器 縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌・薊 豊臣 江戸 近代
8C 16C

北区豊崎遺跡では、古代の中津川に相当する大規模な流路が埋まったのち、平安時代には小規模な建物などが営まれました。室町時代には水溜や溝がつくられ、耕地開発が進んだようです。中央区大坂城跡の調査地は、中世の港町・渡辺津の一角にあたると考えられます。鎌倉～室町時代の陶磁器や土器、瓦を含む溝が見つかりました。瓦が見つかったことは、付近に瓦葺の仏教施設があったことを示唆しています。渡辺津にあった仏教施設「渡辺別所」と関係があるのかもしれない。



渡辺津推定地で見つかった溝
13～15 世紀 中央区 大坂城跡

4. 城下町の生業と蔵屋敷

旧石器 縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌・薊 豊臣 江戸 近代
16C末 19C

大坂の町は大坂城の築城とともに整備されていきました。大坂城跡の北西部にある調査地では、豊臣期の城づくりや町の開発に必要な工具や都市住民の生活用具などを作るために鑄物師が住み、犁先や鍋釜を鑄造していたことがわかりました。江戸時代に入ると、中之島には各藩の蔵屋敷が建ち並び、周辺は米や物資を積んで行きかう船で賑わいました。出土した食器や生活用具には、国元の産品や珍しい品が含まれ、蔵屋敷での暮らしを生き生きと語ってくれています。



土瓶（薩摩焼か）と尾戸焼「寿」字文皿
18 世紀後半～19 世紀初
北区 中之島蔵屋敷跡（久留米藩）